

千代田区全体のまちづくりから地域別への展開【マトリクス表】

- 1 番町・麴町地域
- 2 飯田橋・富士見地域
- 3 神保町地域
- 4 神田公園地域
- 5 万世橋地域
- 6 和泉橋地域
- 7 大手町・丸の内・有楽町・永田町地域

■ 総括表 ■ 地域別まちづくりの将来像（現行の都市計画マスタープラン） + 強化・展開のポイント（案）

基本エリア		麴町・番町・富士見エリア		秋葉原・神田・神保町エリア			都心中枢エリア	
分野・改定の視点		番町・麴町地域	飯田橋・富士見地域	神保町地域	神田公園地域	万世橋地域	和泉橋地域	大丸有・永田町地域
現行の都市計画マスタープラン【将来像】		落ち着いたたたずまいの住環境を大切に、住宅と業務空間が共存・調和するまち	学園や緑の広がり、水辺のやすらぎと商店の活気による、魅力ある生活空間が育まれたまち	文化を創造・発信し、多くの人々を引きつける、にぎわいとふれあいにあふれたまち	下町の雰囲気を活かし、活力ある新しい文化の感じられるまち	下町風情と最先端が調和する活気に満ちたまち	地域に根ざした新たな産業を育む、活気と人情豊かなまち	風格ある環境共生空間に、国際的に開かれた豊かな都市活動が育まれるまち
“つながる都心”を実現するまちづくり・土地利用		急速な人口増加や高齢化に対応し、ライフ・ワークスタイルを豊かにしながら、長く住み続けられるよう建物更新を適切に誘導	大規模な緑地と内濠、外濠、日本橋川の連続性を高め、隣接区を含む回遊性と歴史的・文化的界隈性を活かせる拠点機能を育成	特徴ある業態が集積する靖国通りや、内濠と神田川をつなぐ白山通り、日本橋川を軸に、文化と界隈を楽しめるネットワークを拡大	まちの“モノ”“コト”“ひと”を活かし、つなげながら、由緒ある下町のDNAを未来に伝える“神田”らしいまちづくりを展開	秋葉原を起点として、淡路町、神田駿河台へとつながり、広がる拠点域・文化創造圏のネットワークを形成	日本橋や大手町、秋葉原への近接性、まちの成立ちやつながり、文化性、神田川の水辺を活かし、新しい下町の居住の魅力を生み出す	豊かで活発な都市活動やグローバルな交流が営まれる経済・社会・環境・文化が調和した持続可能性の高い都心を形成
1 豊かな都心生活を実現する住環境の創出	次世代の魅力ある「都心生活」	◇職住が近接した都心の魅力を感じる居住環境の創出 ◇ライフスタイルを豊かにする都市機能の誘導 ◇既存コミュニティの継続と地域（住民・企業・学校など）が連携したまちづくり	◇飯田橋駅周辺の多様な都市機能が集積した高い利便性を保持しつつ、落ち着いたある居住環境を継承 ◇多様な働き方を可能にする起業、創業、交流環境の充実	◇さらなる高齢化の進行を見据え、ライフスタイルを豊かにする都市機能の誘導	◇地域コミュニティの活性化	◇生産性が高まるオフィス環境（バイオフィリックデザイン） ◇ひととまちが様々なきかけ・スタイルで関わり合う	◇働き方の多様性に応じた魅力ある居住スタイルの創造 ◇居住人口の急速な回復に対応した魅力形成（都心生活を楽しむ休日・平日、夜間の魅力創造）	◇生産性が高まるオフィス環境（バイオフィリックデザイン） ◇ひととまちが様々なきかけ・スタイルで関わり合う都心
2 緑と水辺がつながる良質な空間の創出	居心地のよい空間の多様性	◇エリア回遊軸沿道の文化的資源とゆとりある空間・機能の連続性の確保 ◇外濠・内濠の環境創造軸とまちの緑・街並みがつながる、身近で居心地の良い公共空間・オープンスペース等の創出と活用（防災力向上等）	◇水と緑の連担性や教育施設を集積を活かしたライフスタイル・ワークスタイルの実現	◇街区単位での機能更新などとあわせて、まちとつながりの強い施設・空間を創出 ◇多様なひとがまちの様々な空間を使って多様なモノ・コトを起こしていける環境の充実	◇神田警察通り沿道における連続的な空間・機能の活用による地域価値の向上 ◇身近な緑を感じられる居心地の良い空間などオープンスペースの創出・活用や開発を契機とした水辺空間の再生の実現	◇国際観光拠点としての安全・安心・アメニティの向上	◇神田川の水辺を活かして、ゆとりある居心地の良い空間の創出	◇皇居外苑・内濠・日比谷公園等との一体性・連続性の高い空間や都心の眺望を楽しめる空間を創出 ◇都市再生を通じて創出された機能やストックされた空間の多様性と“場の力”を活かし、ネットワーク化を推進
3 都心の風格と景観、界隈の魅力を継承・創出するまちづくり	都心の風格とまちの文脈がつながる界隈	◇エリア回遊軸沿道の文化的資源とゆとりある空間・機能の連続性の確保	◇多様な都市機能が集積した高い利便性を保持しつつ、落ち着いたたたずまいを創出	◇古くからの生業でひとを惹きつける個性ある界隈を継承	◇神田のまちの文脈のつながりを感じさせる神田駅周辺の機能更新 ◇下町らしいまちの営みを感じられるリノベーションや建替えの促進 ◇まちの文脈にそった開発の誘導により、味わいのある界隈・空間との調和、連続性・回遊性と賑わいの向上	◇歴史的資源や祭りとともに、多様な文化や情報、ものづくり・アート、コミュニティが互いに作用しあって魅力を創造し、発信する場・機能の充実	◇下町の居住、問屋街としての成り立ちのなかで息づく商売、アートやものづくりなどがつながり、都心生活が豊かになる場の創出（まちの味わいを感じるリノベーション） ◇神田のまちの文脈のつながりを感じさせる神田駅周辺の機能更新 ◇まちの文脈に沿った開発の誘導により、味わいのある界隈・空間との調和、連続性・回遊性の向上	◇首都東京の都心としての歴史の積み重ねがつくる風格を活かし、新しい都心デザインのなかで継承 ◇文化・芸術機能の強化（MICE等）

基本エリア		麴町・番町・富士見エリア		秋葉原・神田・神保町エリア			都心中枢エリア	
分野・改定の視点		番町・麴町地域	飯田橋・富士見地域	神保町地域	神田公園地域	万世橋地域	和泉橋地域	大丸有・永田町地域
4 道路・交通体系と快適な移動環境の整備	交通結節機能と移動ネットワーク	◇地域特性を考慮した市ヶ谷駅の交通結節拠点機能の強化	◇地域特性を考慮した市ヶ谷駅の交通結節拠点機能の強化	◇白山通りを軸にした竹橋駅周辺・神保町駅周辺の機能の連担性や回遊性を向上	◇路地空間等の活用によるコミュニティの場の創出	◇大手町・神田から外神田、湯島、上野・御徒町へとつづく回遊軸の形成 ◇J R 御茶ノ水駅の駅舎改修や大学等の神田駿河台の機能更新を契機とした魅力ある連続的な空間・街並みのネットワークの形成	◇かつての万世橋周辺の界隈性や神田川の水辺環境を活かし、秋葉原の新産業拠点や電気街・サブカルチャーのまちと神田をつなぐまちづくり	◇空港アクセスなど、都心への広域的なゲートとしての機能・利便性の向上
		◇子どもや高齢者をはじめ、多様なひとが長く安心して、歩いて暮らしやすいまちづくり（麴町駅番町出口等）	◇ユニバーサルデザインに配慮した移動しやすい環境の充実	◇学生・観光客・医療機関へ向かう人等、滞在者の多様性の多様性に対応した機能誘導	◇新しく住み始めた住民やクリエイティブな活動をする人等のコミュニティと祭り等との融合	◇増加する外国人観光客など、多様な人々が快適に滞在・活動できる機能の充実	◇居住人口の急速な回復に伴い、古くからの住民と新しく住み始めた住民との間のコミュニティの形成 ◇人口の急増に伴う、子育て世帯、高齢者・障害者等のひとの多様性の増加や働く人々の増加への対応	◇ユニバーサルデザインの都市環境整備からヒューマンセンタードesign、ダイバシティへの進化
		◇外濠・内濠の環境創造軸とまちの緑・街並みがつながる、身近で居心地の良い公共空間・オープンスペース等の創出と活用（防災力向上等） ◇歴史あるまちの雰囲気、界隈性や落ち着きを継承する分譲マンション等の管理適正化・耐震補強、リノベーションを含む建物更新の促進	◇飯田橋駅周辺の拠点開発に伴う災害対策の拡充	◇日本橋川に沿った心地よい空間の連続性や街並みの創出と浸水対策	◇小規模地権者が多い地域の建物更新	◇国際観光拠点としての安全・安心・アメニティの向上	◇小規模敷地や道路率の高さに起因した、小規模な老朽建築物の耐震化や機能更新	◇大規模災害の発生を想定し、政治・行政・司法の国家中枢機能とともに、高度で国際的なビジネス交流の拠点としての機能の継続性や滞在者等の安全を確保
		◇高経年分譲マンションの機能更新に伴う環境性能の高い建築物や設備等の誘導	◇飯田橋駅周辺の拠点開発に伴う環境性能の向上、エネルギー基盤の強化	◇中小老朽ビルの機能更新にあわせ環境性能の高い設備や建築物、自律的なエネルギー利用の誘導	◇緑が少なく夏場の地表面熱分布が高い地域におけるヒートアイランド対策の推進 ◇街区再編、共同化にあわせた環境性能の向上やエネルギー基盤等の強化の誘導	◇秋葉原駅周辺の都市基盤整備や複数の連続した開発等と連動したエネルギー基盤の強化 ◇大学等の神田駿河台の機能更新を契機としたエネルギー基盤の強化	◇機能更新に際して、次世代の高質な都市機能・都市基盤・環境性能を誘導 ◇緑が少なく夏場の地表面熱分布が高い地域におけるヒートアイランド対策の推進	◇地下空間、地上レベル、建物上部の空間などをつなげ、より居心地良く、過ごしやすい空間の活用 ◇ICT と充実した都市基盤、移動環境、自律性の高いエネルギー基盤の確立 ◇ESG 投資の動向を取り入れた都市づくり
5 多様性を活かすユニバーサルなまちづくり	障壁のない多様な活動と交流							
6 災害にしなやかに対応し、回復力の高い強靱なまちづくり	災害対応力（防災力・復元力・継続性）							
7 高水準の環境・エネルギー対策を進めるまちづくり	都心の快適性と脱炭素、エネルギー利用							

■ 番町・麹町地域 (1/2)

地域特性	概況	・一般型地区計画を基本として、落ち着いた居住と、内濠～外濠をつなぐ麹町大通りの景観軸に沿った街並みを誘導しており、都心居住の豊かな環境や文化的な環境を保っています。	まちづくりの課題： ◇20年間で1.5倍に増加した人口への対応や超高齢化社会の到来への対応 ◇多様化するライフ・ワークスタイル、ひとの多様性への対応 ◇番町らしい落ち着いた居住環境の維持 ◇分譲マンションの管理適正化の推進・高経年化等に対して耐震化等も含む適切な機能更新の遅れ ◇通り・坂の風情や連続した緑を感じる、歩いて楽しい環境の創造やオープンスペースの創出等の身近な緑・空間の不足への対応 ◇交通結節拠点の強化と駅周辺における都市機能の充実 ◇長期未着手の都市計画道路とその整備を想定した土地利用計画
	成り立ち	・江戸期には、番町・紀尾井町界隈には、御三家一門や譜代大名、将軍の警護を担う「大番組」が設置されていましたが、麹町界隈は、宿場町から発展し、幕末には、周辺の大名・旗本屋敷の消費生活を支える山の手最大の町地として賑わいました。 ・明治期以降は、隼町・紀尾井町界隈は軍用地や皇族家族地へ、番町界隈は明治政府の官僚や政治家の屋敷街へと変化し、外国公館の立地や文化人の居住などにより、文化性の高い地域として確立しました。 ・戦後は、番町界隈は広い屋敷跡を利用したマンションやオフィス街へ、麹町界隈は多くの商家が廃業してオフィス街へ、隼町・紀尾井町は学校や国立劇場、ホテルなどの大規模施設へと転換しました。	
	地域の資源	◇交通の利便性に恵まれた閑静な住宅地、学校施設、大使館などが立地し、落ち着いた雰囲気 ◇まちの記憶を伝える通り、高低差、坂など歴史・趣を感じられる空間 ◇豊かな緑の骨格とまちなかの身近なつろぎの空間 ◇紀尾井町界隈には国際的シティホテルが集積し、歴史・文化・交流機能が集積	
	まちづくりの動向	◇落ち着いた街並み・環境に配慮した建替えを誘導（一般型地区計画（一部、街並み誘導型）） ◇新たな拠点としての位置付け（市ヶ谷と四ツ谷（新宿区側）が「活力とにぎわいの拠点地区」に設定） ◇日本テレビ通り沿道のまちづくり協議会が発足	
骨格構造	都市骨格軸	環境創造軸	外濠、内濠、靖国通り、麹町大通り、紀尾井町一帯
		都市機能連携軸	外堀通り、内堀通り 青山通り、麹町大通り、靖国通り
		エリア回遊軸	日本テレビ通り、番町中央通り、大妻通り～半蔵門通り、プリンス通り
	拠点	高度機能創造・連携拠点	紀尾井町
		まちの魅力再生・創造拠点	市ヶ谷 四ツ谷
	基本エリアの土地利用	番町・麹町・富士見エリア〔住居系複合市街地〕 外濠・内濠に囲まれ、落ち着いた文化を感じられる住環境と住み続け、働き、活動する都心生活の豊かさが調和するエリア ○江戸・明治から継承されてきたまちの趣や、外濠・内濠のうるおい、教育施設や大使館等が立地する文化的な雰囲気、居住環境と働き、活動する空間が調和した落ち着いた街並みを基本とします ○人生100年時代の都心生活を一層豊かにする都市機能や公共交通機関の利用環境の充実、適切な建物の更新が進み、安心して住み続けられるエリアとしていきます	
	1 紀尾井町・平河町一帯	外濠（弁慶濠等）や内濠、清水谷公園等の緑と水の豊かな環境に囲まれて、宿泊・国際交流とビジネス、居住、大学等の機能が調和した街並みを維持・創出します。	
2 麹町・番町一帯	江戸からの町割に息づく歴史や文化、趣とともに、外濠・内濠、教育施設、大使館等が醸し出す落ち着いたうるおいある環境を基本にしながら、多世代が住み続けられ、働き、いきいきと活動する豊かな都心生活を支える複合的な機能の充実を図ります。		
界限	番町の落ち着いた住宅地、国際的なシティホテルの集積地		



方針	改定の視点	改定に向けた新たなまちづくりの進化の方向性 (中間のまとめ+第2~3章を踏まえた追記)	備考 (取組みの展開イメージの補足等)
【現行】都市計画マスタープラン		<p>落ち着いたたたずまいの住環境を大切に、住宅と業務空間が共存・調和するまち</p> <p>番町地域は、豊かな歴史・文化的資源、大規模な緑地・オープンスペースを活かして、空間的なゆとりや景観的なうおいを備えた質の高い住環境を保全・創出するとともに、快適な業務空間を形成し、これらの共存・調和を目指します。また、若者からお年寄りまで、多様な世代にとって魅力のあるまちを目指します。</p>	
“つながる都心”を実現するまちづくり・土地利用		<p>急速な人口増加や高齢化に対応し、ライフ・ワークスタイルを豊かにしながら、長く住み続けられるよう建物更新を適切に誘導</p>	<p>◇市ヶ谷駅周辺の駅・まち一体となった拠点の育成</p> <p>◇現状の街並みを基本とした適切な機能更新の誘導</p>
1 豊かな都心生活を実現する住環境の創出	次世代の魅力ある「都心生活」	<p>◇職住が近接した都心の魅力を感じる居住環境の創出</p> <p>◇ライフスタイルを豊かにする都市機能の誘導</p> <p>◇既存コミュニティの継続と地域（住民・企業・学校など）が連携したまちづくり</p> <p>◇多様な働き方を可能にする起業、創業、交流環境の充実</p>	<p>◇ファミリー層や高齢者層等の人口増加に伴う居住者層の変化に対応した生活利便施設の誘導</p> <p>◇ライフ・ワークスタイルの多様化に資する都市機能の誘導</p>
2 緑と水辺がつなぐ良質な空間の創出	居心地のよい空間の多様性	<p>◇エリア回遊軸沿道の文化的資源とゆとりある空間・機能の連続性の確保</p> <p>◇外濠・内濠の環境創造軸とまちの緑・街並みがつながる、身近で居心地の良い公共空間・オープンスペース等の創出と活用（防災力向上等）</p>	<p>◇内濠や外濠と連続した身近に感じられる緑・オープンスペースの維持・創出</p>
3 都心の風格と景観、境界の魅力を継承・創出するまちづくり	都心の風格とまちの文脈がつなぐ境界	<p>◇エリア回遊軸沿道の文化的資源とゆとりある空間・機能の連続性の確保</p>	<p>◇文教地区の落ち着きや趣を尊重した街並み・環境の維持・創出</p> <p>◇宿泊・国際交流とビジネス、居住機能等の再編、緑豊かな環境の相乗効果（紀尾井町）</p>
4 道路・交通体系と快適な移動環境の整備	交通結節機能と移動ネットワーク	<p>◇地域特性を考慮した市ヶ谷駅の交通結節拠点機能の強化</p>	<p>◇日本テレビ通りを軸とした番町一帯の歩きやすいまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・落ち着きある複合市街地と調和した建物・街並みの誘導 ・駅へのアクセスや移動環境の改善 ・複数の駅周辺の地上・地下空間とまちのつながり
5 多様性を活かすユニバーサルなまちづくり	障壁のない多様な活動と交流	<p>◇子どもや高齢者をはじめ、多様なひとが長く安心して、歩いて暮らしやすいまちづくり（麴町駅番町出口等）</p> <p>◇日本テレビ通りを軸とした番町一帯の歩きやすいまちづくり</p> <p>◇市ヶ谷駅周辺の高低差のある地形の克服</p>	<p>◇人口増加に伴うファミリー層等の居住者や働く人等のコミュニティの多様性への対応</p> <p>◇シェアオフィスなどの働き方の多様化への対応</p>
6 災害にしなやかに対応し、回復力の高い強靱なまちづくり	災害対応力 (防災力・復元力・継続性)	<p>◇外濠・内濠の環境創造軸とまちの緑・街並みがつながる、身近で居心地の良い公共空間・オープンスペース等の創出と活用（防災力向上等）</p> <p>◇歴史あるまちの雰囲気、境界性や落ち着きを継承する分譲マンション等の管理適正化・耐震補強、リノベーションを含む建物更新の促進</p>	<p>◇高経年分譲マンションの耐震化</p>
7 高水準の環境・エネルギー対策を進めるまちづくり	都心の快適性と脱炭素、エネルギー利用	<p>◇高経年分譲マンションの機能更新に伴う環境性能の高い建築物や設備等の誘導</p>	

■ 飯田橋・富士見地域（1/2）

地域特性	概況	・外濠・内濠、日本橋川、靖国神社、北の丸公園などの大規模な緑と水辺の空間に囲まれ、文教地区の落ち着きと交通・業務・居住の拠点機能が共存するまちとなっています。	
	成り立ち	・江戸期には、牛込門、田安門、小石川門などに囲まれ、旗本屋敷を主とした武家地が広がっていました。飯田町の一部には町地が分布し、武家相手の商売で賑わっていました。 ・明治維新後、明治政府の官僚や政治家の屋敷街、軍用地や皇族華族地へと変化し、やがて学校や病院等に転換していきました。この間、明治2年には靖国神社が創設、明治27年には、飯田町を始発として八王子まで走る甲武鉄道が開通しました。 ・戦後、落ち着いた住宅地として発展していきました。	
	地域の資源	◇文教地区内は学校施設や医療施設などが立地した落ち着いたたたずまい ◇幹線道路を軸として、商業・業務施設が集積 ◇九段下には千代田区役所などの区政の中核機能が集積 ◇外濠～神田川・日本橋川～靖国神社～北の丸公園～内濠の水と緑の連担性	
	まちづくりの動向	◇都心有数の交通の結節点である飯田橋駅の周辺では、土地区画整理事業や市街地再開発事業等により、多様な機能が集積・調和したバランスのよい環境を創出 ◇JR 飯田橋駅のホーム改良、西口駅舎の建替え、駅広場の整備など、交通結節拠点としての強化と地域まちづくりの機運の醸成 ◇地域で共有された「まちづくり基本構想」が尊重された開発により、緑や子育て・教育環境等と調和したバランスの良い環境を維持 ◇新たな拠点として、市ヶ谷が「活力とにぎわいの拠点地区」に設定 ◇公共空間の活用を眼目とした北の丸公園の周辺整備	
骨格構造	都市骨格軸	環境創造軸	外濠、内濠、皇居・北の丸公園、靖国神社、日本橋川、神田川、内堀通り、靖国通り
		都市機能連携軸	外堀通り、内堀通り、目白通り、靖国通り
		エリア回遊軸	早稲田通り、代官町通り
	拠点	高度機能創造・連携拠点	飯田橋駅周辺 九段下
	基本エリアの土地利用	番町・麹町・富士見エリア〔住居系複合市街地〕 外濠・内濠に囲まれ、落ち着き・文化を感じられる住環境と 住み続け、働き、活動する都心生活の豊かさが調和するエリア ○江戸・明治から継承されてきたまちの趣や、外濠・内濠のうるおい、教育施設や大使館等が立地する文化的な雰囲気、居住環境と働き、活動する空間が調和した落ち着いた街並みを基本とします ○人生100年時代の都心生活を一層豊かにする都市機能や公共交通機関の利用環境の充実、適切な建物の更新が進み、安心して住み続けられるエリアとしていきます	
3 九段・富士見・飯田橋一帯	外濠や内濠・北の丸公園、靖国神社などの大規模な緑と水の空間と飯田橋駅や市ヶ谷駅、九段下駅などの高度な交通利便性を背景として、駅周辺の拠点や商店街、教育、医療、居住等の機能が調和・共存した環境を維持・創出します。		
境界	富士見の学校と緑のある住宅地		

まちづくりの課題：

- ◇多様な都市機能が調和したバランスの良い環境の維持
- ◇多様化するライフ・ワークスタイル、ひとの多様性への対応
- ◇目白通り東側など、集中豪雨や台風等における水害対策
- ◇交通結節拠点のさらなる強化と駅周辺における都市機能の充実
(飯田橋駅の路線間の移動経路のバリアフリー化、駅周辺の滞留空間の整備、市ヶ谷駅の交通結節拠点の位置付けへの対応)



方針	改定の視点	改定に向けた新たなまちづくりの進化の方向性（中間のまとめ＋第2～3章を踏まえた追記）	備考（取組みの展開イメージの補足等）
【現行】都市計画マスタープラン		<p style="text-align: center;">学園や緑の広がり、水辺のやすらぎと商店の活気による、魅力ある生活空間が育まれたまち</p> <p>富士見地域は、学園や病院などが多く、閑静で落ち着いたある住宅と活力のある商店街による、魅力あるまちを目指します。また、外濠、内濠、日本橋川といった水辺空間や靖国神社、北の丸公園等の緑の広がりを活用して、やすらぎのあるまちを目指します。</p>	
“つながる都心”を実現するまちづくり・土地利用		<p style="text-align: center;">大規模な緑地と内濠、外濠、日本橋川の連続性を高め、隣接区を含む回遊性と歴史的・文化的界隈性を活かせる拠点機能を育成</p> <p>◇飯田橋駅周辺の連続的な開発にあわせた拠点機能の充実 ◇飯田橋・九段下・市ヶ谷の各拠点の連携によるまちのゲート機能の向上</p>	◇飯田橋駅及び周辺整備と連続的に、複合的な都市機能を誘導
1 豊かな都心生活を実現する住環境の創出	次世代の魅力ある「都心生活」	◇飯田橋駅周辺の多様な都市機能が集積した高い利便性を保持しつつ、落ち着いたある居住環境を継承 ◇多様な働き方を可能にする起業、創業、交流環境の充実	◇人口の増加に生活利便の向上・ライフ・ワークスタイルの多様化に資する都市機能の誘導
2 緑と水辺がつながる良質な空間の創出	居心地のよい空間の多様性	◇水と緑の連担性や教育施設の集積を活かしたライフスタイル・ワークスタイルの実現 ◇皇居・外濠・内濠の大規模な緑地や身近な緑と水をつなぐ環境の豊かさが感じられる多彩な空間の創出	◇外濠・日本橋川や靖国神社に囲まれた環境とまちのつながりの強化
3 都心の風格と景観、界隈の魅力を継承・創出するまちづくり	都心の風格とまちの文脈がつながる界隈	◇多様な都市機能が集積した高い利便性を保持しつつ、落ち着いたたたずまいを創出	◇教育施設が立地する文教地区の文化的な雰囲気や落ち着いた界隈性の維持・創出
4 道路・交通体系と快適な移動環境の整備	交通結節機能と移動ネットワーク	◇地域特性を考慮した市ヶ谷駅の交通結節拠点機能の強化	◇飯田橋駅及び周辺整備に伴う駅周辺とまちのつながり・連続性
5 多様性を活かすユニバーサルなまちづくり	障壁のない多様な活動と交流	◇ユニバーサルデザインに配慮した移動しやすい環境の充実	
6 災害にしなやかに対応し、回復力の高い強靱なまちづくり	災害対応力 (防災力・復元力・継続性)	◇飯田橋駅周辺の拠点開発に伴う災害対策の拡充	
7 高水準の環境・エネルギー対策を進めるまちづくり	都心の快適性と脱炭素、エネルギー利用	◇飯田橋駅周辺の拠点開発に伴う環境性能の向上、エネルギー基盤の強化	

■ 神保町地域 (1/2)

地域特性	概況	<ul style="list-style-type: none"> 多様な教育施設が集積し、学生のまちとして古書店街が形成されるなど、「知」と「文化」のエネルギーが交わり、多彩なひとが多様なモノ・コトを起こすエネルギーを持ったまちとなっています。 	<p>まちづくりの課題：</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇高齢化への対応と多様化するライフ・ワークスタイル、ひとの多様性への対応 ◇小規模敷地における建物老朽化の進行 ◇ひと・空間の特色を生かした多様な活動を支える環境の創造 ◇日本橋川の再生・活用 ◇白山通り西側など、集中豪雨や台風等における水害対策 ◇白山通りの整備に伴う街区の見直し
	成り立ち	<ul style="list-style-type: none"> 江戸期には、主に大名屋敷や旗本屋敷、幕府関係施設などの武家地が建ち並んでいました。 明治維新後、一ツ橋一帯や近隣の神田公園地域には、大学・各種学校など、多くの教育施設が立地・発祥し、印刷・製本業や古書店などが集積しました。また、劇場や映画館等が設けられ、住商工の混ざり合った活気ある下町型のまちとして発展していきました。関東大震災後の復興区画整理事業によって、靖国通りなどの幹線道路が整備されました。 第2次世界大戦中の空襲を免れた古書店などを中心に、独特の雰囲気をもつまちとして発展を遂げました。 	
	地域の資源	<ul style="list-style-type: none"> ◇古書店街、印刷・出版街など、多くの滞在者が来訪する特色ある界隈が形成 ◇大学・各種学校の発祥の地であり、現在も大学や医療施設が集積、学生街が形成 ◇靖国通り・白山通りなど東西南北に幹線道路が走り、骨格軸が発達 ◇お茶の水風致地区などの外濠の豊かな景観や歴史ある錦華公園など、豊かな環境 	
	まちづくりの動向	<ul style="list-style-type: none"> ◇エリアに応じて都市計画手法を活用・神田駿河台では一般型地区計画、神田神保町や一ツ橋では千代田区型地区計画を適用、総合設計制度や市街地再開発事業などにより、街区単位での機能更新を推進 ◇お茶の水橋の補修補強工事や明大通りの歩道拡幅など御茶ノ水駅周辺の整備の推進 ◇新たな拠点としての位置付け（御茶ノ水、水道橋、九段下・神保町が「活力とにぎわいの拠点地区」に設定） ◇白山通りが都市計画道路の優先整備路線に選定 	
骨格構造	都市骨格軸	環境創造軸	外濠、日本橋川、神田川
		都市機能連携軸	外堀通り 白山通り、靖国通り
		エリア回遊軸	明大通り～千代田通り
	拠点	まちの魅力再生・創造拠点	神保町、 御茶ノ水
		基本エリアの土地利用	<p>秋葉原・神田・神保町エリア〔新下町型+学園共存型複合市街地〕 江戸・下町の文化や個性ある界隈の味わい、ひとと生業のつながりある複合市街地と秋葉原・万世橋の拠点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○江戸・下町の“神田”や明治以降の旗本・大名屋敷からの土地利用転換によって育まれた個性ある界隈性、建物のストックやひとのつながりを活かしていきます ○それぞれのまちの文脈が感じられる機能更新やリノベーション、耐震化等が進み、開発された区域と個性ある界隈が連続して、まちの文化や味わいを感じる楽しさが広がるエリアとしています
	2 神保町一帯	江戸期の旗本屋敷や明治以降の大学等のまちの系譜から、街区のまとまった規模での土地利用が多く見られるエリアや、古書店街などの生業の集積で界隈の文化・活力が際立つエリアなどが共存し、それぞれの機能や空間、回遊の魅力を相互に高めあう複合市街地としています。	
3 神田駿河台	医療機関や大学キャンパス（教育、学術・研究機能等）等の集積が醸し出す文化や特徴ある街並み、うるおいあるオープンスペースとその連続性などの特徴を活かして、多様なひとが訪れて心地よく過ごし、交流し、新たな価値を創造していく複合市街地としています。		
界隈	印刷・出版街（機能転換が進行）、古書店街、学生街、医療機関の集積地		



■ 神保町地域（2 / 2）

方針	改定の視点	改定に向けた新たなまちづくりの進化の方向性（中間のまとめ＋第2～3章を踏まえた追記）	備考（取組みの展開イメージの補足等）
【現行】都市計画マスタープラン		<p style="text-align: center;">文化を創造・発信し、多くの人々を引きつける、にぎわいとふれあいにあふれたまち</p> <p>神保町地域では、書店・古書店や学生街など独特のまちの個性を活かしつつ、武道館やスポーツ用品店街などの回遊性を高め、にぎわいにあふれたまちを目指します。また、出版業・書店の集積を活かし最新の情報を発信するとともに、歴史・文化的たたずまいや下町的コミュニティの感じられるまちを目指します。</p>	
“つながる都心”を実現するまちづくり・土地利用		<p style="text-align: center;">特徴ある業態が集積する靖国通りや、内濠と神田川をつなぐ 白山通り、日本橋川を軸に、文化と界隈を楽しめるネットワークを拡大</p>	◇神保町駅周辺の駅・まち一体となった拠点の育成
1 豊かな都心生活を実現する住環境の創出	次世代の魅力ある「都心生活」	◇さらなる高齢化の進行を見据え、ライフスタイルを豊かにする都市機能の誘導	◇人口の増加やライフ・ワークスタイルの多様化に対応した生活支援機能の誘導
2 緑と水辺がつなぐ良質な空間の創出	居心地のよい空間の多様性	◇街区単位での機能更新などとあわせて、まちとつながりの強い施設・空間を創出 ◇多様なひとがまちの様々な空間を使って多様なモノ・コトを起こしていける環境の充実	◇日本川周辺の魅力ある空間のネットワーク化
3 都心の風格と景観、界隈の魅力を継承・創出するまちづくり	都心の風格とまちの文脈がつなぐ界隈	◇古くからの生業でひとを惹きつける個性ある界隈を継承	◇古書店街が形成する界隈性・街並みを継承する中小業務ビルの機能更新
4 道路・交通体系と快適な移動環境の整備	交通結節機能と移動ネットワーク	◇白山通りを軸にした竹橋駅周辺・神保町駅周辺の機能の連担性や回遊性を向上	
5 多様性を活かすユニバーサルなまちづくり	障壁のない多様な活動と交流	◇学生・観光客・医療機関へ向かう人等、滞在者の多様性の多様性に対応した機能誘導	
6 災害にしなやかに対応し、回復力の高い強靱なまちづくり	災害対応力 (防災力・復元力・継続性)	◇日本橋川に沿った心地よい空間の連続性や街並みの創出と浸水対策 ◇神田駿河台の医療機関の集積地へと続く道路沿道の耐震化 ◇避難救急活動のためのオープンスペース確保	
7 高水準の環境・エネルギー対策を進めるまちづくり	都心の快適性と脱炭素、エネルギー利用	◇中小老朽ビルの機能更新にあわせ環境性能の高い設備や建築物、自律的なエネルギー利用の誘導	

■ 神田公園地域（1 / 2）

地域特性	概況	<ul style="list-style-type: none"> ・出世不動尊や佐竹稲荷神社などに残っている歴史、神田駅周辺の商店街、スポーツ用品店街の形成など、昔ながらの下町らしさと新しい文化の双方を感じられるまちとなっています。 	<p>まちづくりの課題：</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇多様化するライフ・ワークスタイル、ひとの多様性への対応 ◇小規模敷地や道路率の高さに起因した建物老朽化の進行 ◇身近な緑・空間の不足、日本橋川の水辺空間の再生 ◇看板建築の減少、マンション立地や余剰の附置義務駐車場整備による賑わいの連続性の低下など、まちの味わいや奥行きを感じられる神田らしさの希薄化 ◇神田警察通りを軸とした新たな価値創造活動のさらなる展開 ◇コミュニティの衰退
	成り立ち	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸期には、西半分は大名屋敷や武家屋敷などの武家地、東半分には高密度な町地が広がっていました。 ・明治期、神田錦町・小川町付近には、多くの教育施設が立地し、学校のまちとなりました。一方、町地は住 商混在の活気ある下町型のまちとして発展しました。関東大震災で地域の大部分を消失し、復興区画整 理事業により、幹線道路である靖国通りや本郷通りなどが整備され、現代の地域の骨格が形成されました。 ・戦後、地下鉄網が整備されると、交通の利便性が向上し、大手町をはじめとした業務機能が集積する地域 に隣接していることから、区内でも特に業務地化が進行しました。 	
	地域の資源	<ul style="list-style-type: none"> ・靖国通り沿いのスポーツ用品店街、神田駅周辺の飲食店街など、多くの人を訪れる特徴的な界隈が形成 ・内神田を中心に下町らしい路地空間、看板建築、出世不動尊や佐竹稲荷神社など、歴史を感じられる空間 ・小学校跡地を利用して創出した小川広場、大手町との間を流れる日本橋川 ・千代田区立スポーツセンターがあり、区のスポーツの拠点 	
	まちづくりの動向	<ul style="list-style-type: none"> ◇千代田区型地区計画のきめ細かな展開や総合設計制度などの活用により、定住人口の回復を目指して住宅床の供給を誘導 ◇神田錦町界隈、神田警察通りにおける機能更新の推進 ◇神田警察通り沿道において、社会実験を実施するなど、地域主体による価値創造の取組みが活発化（エリアマネジメントの進展） 	
骨格構造	都市骨格軸	環境創造軸	日本橋川
		都市機能連携軸	白山通り、本郷通り、靖国通り、中央通り
		エリア回遊軸	明大通り～千代田通り、神田警察通り
	基本エリアの土地利用	<p>秋葉原・神田・神保町エリア〔新下町型+学園共存型複合市街地〕</p> <p>江戸・下町の文化や個性ある界隈の味わい、ひとと生業のつながりある複合市街地と秋葉原・万世橋の拠点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○江戸・下町の“神田”や明治以降の旗本・大名屋敷からの土地利用転換によって育まれた個性ある界隈性、建物のストックやひとのつながりを活かしていきます ○それぞれのまちの文脈が感じられる機能更新やリノベーション、耐震化等が進み、開発された区域と個性ある界隈が連続して、まちの文化や味わいを感じる楽しさが広がるエリアとしていきます 	
	1 秋葉原・神田一帯	<p>神田明神・神田祭が象徴する江戸の町人地のエネルギーや生業、人のつながりなど、有形無形の文化を継承し、建物更新や味わいある建物のリノベーション、路地を活かした空間デザイン、賑わいの連続性等で「下町の新文化と奥行き、味わい」を醸成し、秋葉原や大手町の拠点エリアと相互に魅力を高めあう複合的な市街地としていきます。</p>	
界隈	スポーツ用品店街、飲食店街		



■ 神田公園地域（2/2）

方針	改定の視点	改定に向けた新たなまちづくりの進化の方向性（中間のまとめ＋第2～3章を踏まえた追記）	備考（取組みの展開イメージの補足等）
		下町の雰囲気を活かし、活力ある新しい文化の感じられるまち 神田公園地域は、親水性を高めた日本橋川の水の軸を活かして、人々の憩う、うるおいあふれるまちを目指します。また、スポーツ用品店街や、神田駅周辺の商店街に集まる多様な人々との交流や、出世不動や佐竹稲荷神社などに残っている歴史性をまちの資源として活かし、昔ながらの下町らしさと新しい文化の感じられるまちを目指していきます。	
		まちの“モノ”“コト”“ひと”を活かし、つなげながら、 由緒ある下町のDNAを未来に伝える“神田”らしいまちづくりを展開 ◇大手町と秋葉原の中間で存在感を高め、下町の魅力を創出	◇神田駅周辺の駅・まち一体となった拠点の育成 ◇神田駅から神田錦町一帯のまちづくりの相乗効果
1 豊かな都心生活を 実現する住環境の 創出	次世代の魅力ある 「都心生活」	◇地域コミュニティの活性化 ◇集合住宅の増加・駐車場付置義務に伴うまちの賑わい機能の低下への対応	◇人口の増加やライフ・ワークスタイルの多様化に対応した生活支援機能の誘導 ◇外国人観光客の増加に対応したサービスアパートメント等のニーズへの対応
2 緑と水辺がつながり 良質な空間の創出	居心地のよい空間の 多様性	◇神田警察通り沿道における連続的な空間・機能の活用による地域価値の向上 ◇身近な緑を感じられる居心地の良い空間などオープンスペースの創出・活用や開発を契機とした水辺空間の再生の実現 ◇下町らしい都心生活を豊かにするよう、神田警察通り沿いの都市機能やオープンスペースの連続性・相乗効果を強めるまちづくりを展開	◇日本橋川を介した大手町とのつながり
3 都心の風格と景観、 界隈の魅力を継承・ 創出するまちづくり	都心の風格とまちの 文脈がつながり界隈	◇神田のまちの文脈のつながりを感じさせる神田駅周辺の機能更新 ◇下町らしいまちの営みを感じられるリノベーションや建替えの促進 ◇まちの文脈にそった開発の誘導により、味わいのある界隈・空間との調和、連続性・回遊性と賑わいの向上 ◇江戸下町の風情を感じ、秋葉原と大手町や日本橋とつながる味わいある拠点となるよう神田駅東側・西側、中央通り沿道のまちづくりを展開	◇まちの文脈にそった開発の誘導や界隈性を継承する街区再編 ◇下町らしい営みを感じられる看板建築やリノベーション ◇MICE やアフターコンベンション等のニーズへの対応
4 道路・交通体系と 快適な移動環境の 整備	交通結節機能と 移動ネットワーク	◇路地空間等の活用によるコミュニティの場の創出	◇神田駅周辺の交通結節機能の強化（神田～日本橋へのつながり）
5 多様性を活かす ユニバーサルな まちづくり	障壁のない多様な 活動と交流	◇新しく住み始めた住民やクリエイティブな活動をする人等のコミュニティと祭り等との融合	
6 災害にしなやかに 対応し、回復力の 高い強靱なまちづくり	災害対応力 (防災力・復元力・継続性)	◇小規模地権者が多い地域の建物更新	◇中小老朽建物の耐震化 ◇下町らしい営みを感じられる老朽建物の機能更新（リノベーション・建替え） ◇神田駿河台の医療機関の集積地へと続く道路沿道の耐震化
7 高水準の環境・ エネルギー対策 を進めるまちづくり	都心の快適性と脱炭 素、エネルギー利用	◇緑が少なく夏場の地表面熱分布が高い地域におけるヒートアイランド対策の推進 ◇街区再編、共同化にあわせた環境性能の向上やエネルギー基盤等の強化の誘導	

■ 万世橋地域（2 / 2）

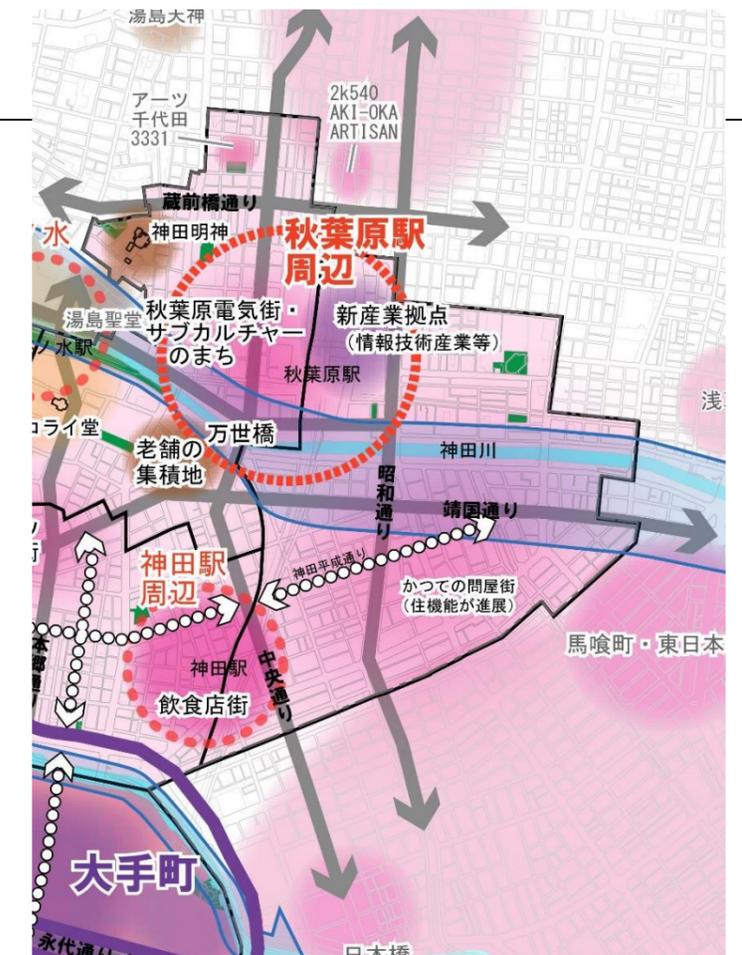
方針	改定の視点	改定に向けた新たなまちづくりの進化の方向性（中間のまとめ＋第2～3章を踏まえた追記）	備考（取組みの展開イメージの補足等）
		下町風情と最先端が調和する活気に満ちたまち	
		万世橋地域は、神田明神、老舗の商店等の下町的・伝統的な雰囲気や駿河台の落ち着いた雰囲気や霧困気を大切にすると共に、電気街の最先端的な産業集積によるヒト・モノ・情報の拠点の育むまちを目指します。また、人々が憩える回遊空間の形成を進め、多くの人でにぎわうまちを目指します。	
		秋葉原を起点として、淡路町、神田駿河台へとつながり、広がる拠点域・文化創造圏のネットワークを形成	
		◇秋葉原の拠点と万世橋周辺、淡路町の連担性が高まる魅力づくり	◇万世橋周辺の界隈性や神田川の水辺を活かした秋葉原と神田のまちのつながり
1 豊かな都心生活を実現する住環境の創出	次世代の魅力ある「都心生活」	◇生産性が高まるオフィス環境（バイオフィリックデザイン） ◇ひととまちが様々なきかけ・スタイルで関わり合う	◇人口の増加やライフ・ワークスタイルの多様化に対応した生活支援機能の誘導 ◇海外からの滞在者の増加に対応したサービスアパートメント等のニーズへの対応
2 緑と水辺がつなぐ良質な空間の創出	居心地のよい空間の多様性	◇国際観光拠点としての安全・安心・アメニティの向上 ◇かつての万世橋周辺の界隈性や神田川の水辺環境の活用	◇魅力ある連続的な空間・街並みのネットワークの形成（秋葉原～神田駿河台／秋葉原～神田周辺と大手町）
3 都心の風格と景観、界隈の魅力を継承・創出するまちづくり	都心の風格とまちの文脈がつなぐ界隈	◇歴史的資源や祭りとともに、多様な文化や情報、ものづくり・アート、コミュニティが互いに作用しあって魅力を創造し、発信する場・機能の充実	◇老舗や学生街、秋葉原電気街の界隈の魅力や外神田（神田明神、アーツ千代田等）の個性を活かすまちづくり
4 道路・交通体系と快適な移動環境の整備	交通結節機能と移動ネットワーク	◇大手町・神田から外神田、湯島、上野・御徒町へとつづく回遊軸の形成 ◇JR御茶ノ水駅の駅舎改修や大学等の神田駿河台の機能更新を契機とした魅力ある連続的な空間・街並みのネットワークの形成 ◇かつての万世橋周辺の界隈性や神田川の水辺環境を活かし、秋葉原の新産業拠点や電気街・サブカルチャーのまちと神田をつなぐまちづくり	◇万世橋周辺を起点とした回遊性の向上とネットワーク化（舟運等）
5 多様性を活かすユニバーサルなまちづくり	障壁のない多様な活動と交流	◇増加する外国人観光客など、多様な人々が快適に滞在・活動できる機能の充実	◇外国人観光客の増加に対応する多言語対応
6 災害にしなやかに対応し、回復力の高い強靱なまちづくり	災害対応力（防災力・復元力・継続性）	◇国際観光拠点としての安全・安心・アメニティの向上 ◇ひとの多様性に対応した避難等の安全確保対策、都心生活・高度な拠点機能の継続及び早期復旧とその事前準備	◇避難等の安全確保対策、都心生活・高度な拠点機能の継続及び早期復旧 ◇増加する外国人観光客など、多様な滞在者への災害対応等の安全確保 ◇都市機能と都心生活の継続性確保のための空間・機能・施設の誘導 ◇ライフラインの強靱性、バックアップ機能の確保 ◇帰宅困難者対策を支援する開発誘導 ◇特定緊急輸送道路の耐震化の推進 ◇神田駿河台の医療機関の集積地へと続く道路沿道の耐震化
7 高水準の環境・エネルギー対策を進めるまちづくり	都心の快適性と脱炭素、エネルギー利用	◇秋葉原駅周辺の都市基盤整備や複数の連続した開発等と連動したエネルギー基盤の強化 ◇大学等の神田駿河台の機能更新を契機としたエネルギー基盤の強化	

■ 和泉橋地域 (1/2)

地域特性	概況	<ul style="list-style-type: none"> かつての、問屋街の面影は失われつつありますが、年に二回「岩本町・東神田ファミリーバザール」が開催されるなど繊維街としての面影を残しています。コミュニティのつながりとエネルギー、なりわいの息づいたまちとして、下町的な良さが保たれています。 	
	成り立ち	<ul style="list-style-type: none"> 江戸期は、日本橋地域と隣接していることも影響し、商人や職人の長屋が連なり、神田川沿いには、舟運を利用した流通関連の業種が多く立地していました。 明治維新後も、金物をはじめ、東京の流通で重要な立場を維持し、現代の金物通りの原型ともなりました。関東大震災後の復興区画整理事業により、幹線道路である靖国通りや昭和通りなどが整備され、現代の地域の骨格が形成されました。昭和の初めには、秋葉原旅客駅が設置されて交通の拠点となりました。 戦後、繊維・金物・薬品など独特の間屋が集積し、住商の混在する町として発展していきました。 	
	地域の資源	<ul style="list-style-type: none"> ◇下町らしさのある界隈、看板建築など歴史を感じられる空間 ◇産学連携機能・集客機能・情報発信機能などが集積し、新産業拠点を形成 ◇年に二回開催され、多くの人々が来訪する 30 年以上続く「岩本街・東神田ファミリーバザール」 ◇リニューアルされた芝生広場のある和泉公園 ◇地域の中央を東西に流れる神田川 	
	まちづくりの動向	<ul style="list-style-type: none"> ◇千代田区型地区計画のきめ細やかな展開や総合設計制度などの活用により、定住人口の回復を目指して住宅床の供給を誘導 ◇岩本町・神田では、町会の協力により若手アーティストで構成される団体によるエリアリノベーション的プロジェクトにより、かつての間屋街にあった建物の再生が進展 ◇鍛冶町の廃校となった中学校の校舎を活用した緊急待機児童対策の実施 ◇防災船着き場・観光の拠点としても活用される和泉橋船着き場の整備により、神田川の親水性が向上 ◇神田川沿いの個別建替えが連続し、水辺を感じられる空間が増加 	
骨格構造	都市骨格軸	環境創造軸	神田川、靖国通り
		都市機能連携軸	外堀通り 昭和通り、靖国通り、中央通り
		エリア回遊軸	神田平成通り
	拠点	高度機能創造・連携拠点	秋葉原駅周辺
		まちの魅力再生・創造拠点	神田駅
	基本エリアの土地利用	<p>秋葉原・神田・神保町エリア〔新下町型+学園共存型複合市街地〕 江戸・下町の文化や個性ある界隈の味わい、ひとと生業のつながりある複合市街地と秋葉原・万世橋の拠点</p> <p>○江戸・下町の“神田”や明治以降の旗本・大名屋敷からの土地利用転換によって育まれた個性ある界隈性、建物のストックやひとのつながりを活かしていきます</p> <p>○それぞれのまちの文脈が感じられる機能更新やリノベーション、耐震化等が進み、開発された区域と個性ある界隈が連続して、まちの文化や味わいを感じる楽しさが広がるエリアとしていきます</p>	
1 秋葉原・神田一帯	<p>神田明神・神田祭が象徴する江戸の町人地のエネルギーや生業、人のつながりなど、有形無形の文化を継承し、建物更新や味わいある建物のリノベーション、路地を活かした空間デザイン、賑わいの連続性等で「下町の新たな文化と奥行き、味わい」を醸成し、秋葉原や大手町の拠点エリアと相互に魅力を高めあう複合的な市街地としていきます。</p>		
界隈	新産業拠点（情報技術産業等）、かつての間屋街（住機能が進展）		

まちづくりの課題：

- ◇昭和通り、靖国通りといった幹線道路により、都市機能や賑わいが分断
- ◇ファミリー層を中心とする人口増加への対応
- ◇かつての生業の集積度の低下
- ◇小規模敷地や道路率の高さに起因した建物老朽化が進行
- ◇神田川の再生・活用
- ◇建物の規格の変遷に対応しきれていない地区計画の見直し



■ 和泉橋地域（2/2）

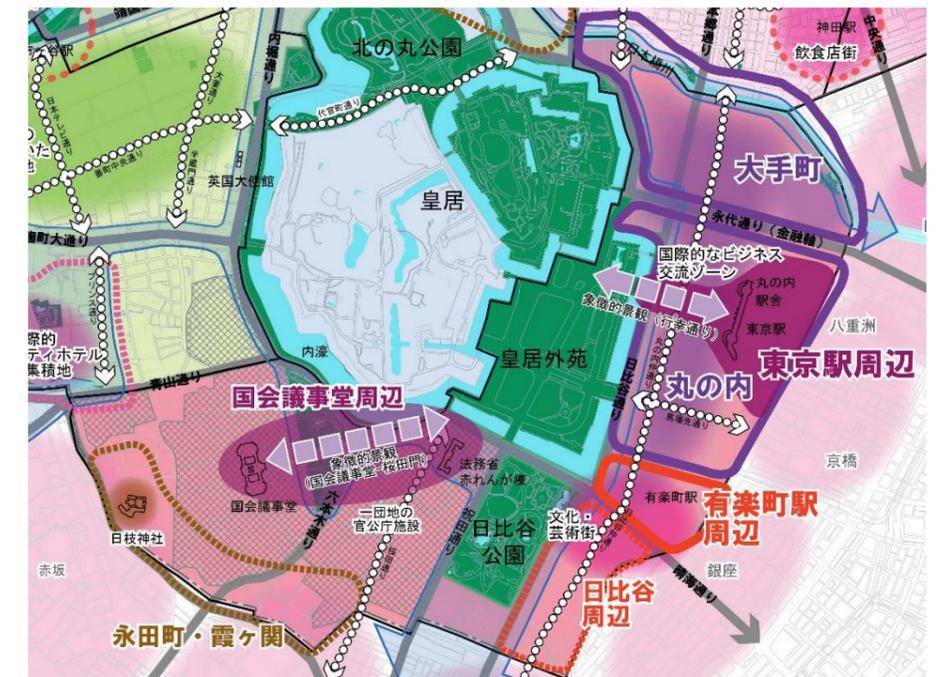
方針	改定の視点	改定に向けた新たなまちづくりの進化の方向性（中間のまとめ＋第2～3章を踏まえた追記）	備考（取組みの展開イメージの補足等）
		地域に根ざした新たな産業を育む、活気と人情豊かなまち	
		和泉橋地域は、都心の利便性を活かし、新たな産業構造への転換を進め、都心居住が促進された活気と人情豊かなまちを目指します。また、親水性を高めた神田川の水の軸や道路空間などを活かして、人々が気軽にふれあえるような、人情あふれる空間づくりを進めます。	
		日本橋や大手町、秋葉原への近接性、まちの成立ちやつながり、文化性、神田川の水辺を活かし、新しい下町の居住の魅力を生み出す	
1 豊かな都心生活を実現する住環境の創出	次世代の魅力ある「都心生活」	<ul style="list-style-type: none"> ◇働き方の多様性に応じた魅力ある居住スタイルの創造 ◇居住人口の急速な回復に対応した魅力形成（都心生活を楽しむ休日・平日、夜間の魅力創造） ◇馬喰町・東日本橋や日本橋との近接性を活かす都心居住の魅力（海外からの滞在者の増加に対応したサービスアパートメント等のニーズへの対応等） 	<ul style="list-style-type: none"> ◇人口の増加やライフ・ワークスタイルの多様化に対応した生活支援機能の誘導 ◇馬喰町・東日本橋や日本橋との近接性をいかす都心居住の魅力の創出 ◇海外からの滞在者の増加に対応したサービスアパートメント等のニーズへの対応
2 緑と水辺がつながる良質な空間の創出	居心地のよい空間の多様性	◇神田川の水辺を活かし、ゆとりある居心地の良い空間の創出	
3 都心の風格と景観、境界の魅力を継承・創出するまちづくり	都心の風格とまちの文脈がつながる境界	<ul style="list-style-type: none"> ◇下町の居住、問屋街としての成り立ちのなかで息づく商売、アートやものづくりなどがつながり、都心生活が豊かになる場の創出（まちの味わいを感じるリノベーション） ◇神田のまちの文脈のつながりを感じさせる神田駅周辺の機能更新 ◇まちの文脈に沿った開発の誘導により、味わいのある境界・空間との調和、連続性・回遊性の向上 	◇アートや先端的な魅力を感じられる都心生活
4 道路・交通体系と快適な移動環境の整備	交通結節機能と移動ネットワーク	◇かつての万世橋周辺の境界性や神田川の水辺環境を活かし、秋葉原の新産業拠点や電気街・サブカルチャーのまちと神田をつなぐまちづくり	
5 多様性を活かすユニバーサルなまちづくり	障壁のない多様な活動と交流	<ul style="list-style-type: none"> ◇居住人口の急速な回復に伴い、古くからの住民と新しく住み始めた住民との間のコミュニティの形成 ◇人口の急増に伴う、子育て世帯、高齢者・障害者等のひとの多様性の増加や働く人々の増加への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ◇古くからの住民と新しく住み始めた住民との間のコミュニティの形成 ◇旧今川中学校のコミュニティ形成の場としての活用
6 災害にしなやかに対応し、回復力の高い強靱なまちづくり	災害対応力 (防災力・復元力・継続性)	◇小規模敷地や道路率の高さに起因した、小規模な老朽建築物の耐震化や機能更新	◇小規模老朽建築物の耐震化等
7 高水準の環境・エネルギー対策を進めるまちづくり	都心の快適性と脱炭素、エネルギー利用	<ul style="list-style-type: none"> ◇機能更新に際して、次世代の高質な都市機能・都市基盤・環境性能を誘導 ◇緑が少なく夏場の地表面熱分布が高い地域におけるヒートアイランド対策の推進 	

■ 大手町・丸の内・有楽町・永田町地域（1/2）

地域特性	概況	<ul style="list-style-type: none"> 大手町・丸の内界隈にはオフィス街、有楽町界隈には繁華街が発展し、永田町・霞が関界隈には国家中枢機能が集中し、歴史と風格ある街並みが形成されています。 	
	成り立ち	<ul style="list-style-type: none"> 江戸城正門である大手門前や大名小路には老中・若年寄など幕閣を担う譜代大名らの屋敷や幕府諸機関が所在、丸の内・日比谷・霞が関界隈には有力外様大名の上屋敷が分布し、江戸の中枢を担いました。 明治維新後、大手町・丸の内・霞が関界隈には政府の諸機関が、丸の内・日比谷界隈には軍用地が置かれました。その後、官庁集中計画により、司法省・大審院・海軍省の煉瓦庁舎が完成、明治36年には日比谷練兵場跡地が日比谷公園として開園しました。丸の内の軍用地は民間に払い下げられ、明治27年の三菱一号館が竣工後、「一丁倫敦」と呼ばれるビジネス街となりました。 大正3年には東京駅が開業、行幸通り一帯に鉄筋コンクリート造のオフィスビルが竣工、「一丁紐育」と称される米国風の街並み appeared。高度経済成長期以降になると、業務機能の集積が急速に進展するとともに、中央官庁地区の整備が進みました。 	
	地域の資源	<ul style="list-style-type: none"> 東京駅、法務省赤レンガ棟、国会議事堂など歴史と風格ある街並みが形成されています。 行幸通り、丸の内仲通りなど魅力的で個性的な道路空間が存在しています。 「地区計画」と両輪となる、官民連携で定めた「まちづくりガイドライン」が尊重された都市再生の様々な活用が進み、大規模なオフィスビルの更新、高度で多様な都市機能・空間が充実しています。 日枝神社の大祭・山王祭は、江戸期以来のまちのエネルギーを象徴し、現代へと継承されています。 日比谷公園は、都心のオアシスとして愛されています。 	
	まちづくりの動向	<ul style="list-style-type: none"> ◇歴史的な街並みの保存による都心の風格の継承と顕在化、商業・文化など多様な都市機能の誘導や緑・空地の確保により、新たな価値・交流を生む空間として再生・活用が進展 ◇常盤橋における大規模開発のさらなる進展 ◇日比谷公園ランドデザインとその周辺による地域資源の魅力向上に向けた取り組み ◇国家戦略特区制度を活用した道路空間の魅力創造、広場の活動運営などのエリアマネジメントの進展 ◇大手町、丸の内仲通り、大手町～六本木ヒルズなどでの新技術を取り入れた社会実験の実施 	
骨格構造	都市骨格軸	環境創造軸	内濠、日本橋川、皇居外苑、日比谷仲通り、日比谷公園、国会議事堂周辺
		都市機能連携軸	外堀通り、日比谷通り 六本木通り、青山通り、白山通り、本郷通り、永代通り（金融軸）、祝田通り、晴海通り
		エリア回遊軸	丸の内仲通り～日比谷仲通り、馬場先通り、桜田通り
	拠点	都心・千代田の象徴的拠点	東京駅周辺 国会議事堂周辺
		国際ビジネス・文化交流拠点	大手町、丸の内 有楽町駅周辺
		高度機能創造・連携拠点	日比谷周辺 永田町・霞が関
	基本エリアの土地利用	<p>都心中枢エリア（業務系+官公庁複合市街地）</p> <p>首都・東京を牽引し、進化し続ける強靱な都心</p> <ul style="list-style-type: none"> ○首都機能とともに都市再生が進展して生まれた国際的なビジネス交流機能や都市機能の多様性、空間のネットワークによって、より創造的な都心の価値を生み続けていきます ○先進的で強靱な都心形成とそのマネジメントが進化して首都東京を牽引するエリアとしていきます 	
	1 大手町・丸の内・有楽町	首都・東京の国際的な経済活動を牽引する象徴的で風格のあるエリアとして、業務機能だけでなく、ビジネス交流、ショッピング、芸術・文化、宿泊・滞在など、機能の高度化・複合化とイノベーションが進むなかで、グローバルなまちとしての新しい価値が生まれ続ける都心の中枢エリアとしていきます。	
	2 日比谷公園周辺	象徴的な都市公園（日比谷公園）との空間とつながる環境の連続性・一体性を高めながら、芸術・文化、宿泊、飲食とオフィス、シェア空間などの複合的な機能の集積で、多様なひとが訪れ、夜間でも安心して快適に過ごせるエリアとしていきます。	
	3 永田町・霞が関	国会議事堂を中心に国家中枢機能が集積するエリアとしての象徴性と風格を継承しながら、日枝神社やその周辺の歴史性と緑のつながり、文化、教育、オフィス、居住の機能が調和した多様性のあるまちとしていきます。	
界限	国際的なビジネス交流ゾーン、文化・芸術街、一団地の官公庁施設		

まちづくりの課題：

- ◇多くの昼間人口、外国人観光客数の大幅な増加により、ひとの多様性に配慮した大規模災害対策 ◇歴史と風格ある街並みの保存・継承
- ◇緑・水辺空間の一体性の確保や魅力ある環境の創造
- ◇ひと・空間の多様性を生かした居心地の良い場づくり
- ◇多様な滞在者の多様な活動を支える移動手段の高度化
- ◇隣接区との連担・連携の強化



■ 大手町・丸の内・有楽町・永田町地域（2/2）

方針	改定の視点	改定に向けた新たなまちづくりの進化の方向性（中間のまとめ＋第2～3章を踏まえた追記）	備考（取組みの展開イメージの補足等）
【現行】都市計画マスタープラン		<p>風格ある環境共生空間に、国際的に開かれた豊かな都市活動が育まれるまち</p> <p>本地域は、世界都市東京の中心にふさわしく、歴史の積み重ねによる風格ある質の高い街並みを形成し、また、鳥や昆虫の棲む水と緑にあふれた環境共生空間を創出します。さらに、多様な人々に開かれ、質的転換の図られた高次な業務機能と国際的な商業・文化・交流・情報機能をあわせもつ複合的な都市機能を備え、災害に強く、豊かな都市活動や世界的交流が営まれるまちを目指します。</p>	
“つながる都心”を実現するまちづくり・土地利用		<p>豊かで活発な都市活動やグローバルな交流が営まれる 経済・社会・環境・文化が調和した持続可能性の高い都心を形成</p> <p>◇東京都市計画の広域的な役割の中で、Society5.0 等次世代を見据えた機能更新を展望 ◇日比谷・内幸町等から、新橋・汐留や虎ノ門、八重洲側、六本木等との連坦性・機能連携の強化</p>	
1 豊かな都心生活を実現する住環境の創出	次世代の魅力ある「都心生活」	<p>◇生産性が高まるオフィス環境（バイオフィリックデザイン） ◇ひととまちが様々なきかけ・スタイルで関わり合う都心</p>	
2 緑と水辺がつながる良質な空間の創出	居心地のよい空間の多様性	<p>◇皇居外苑・内濠・日比谷公園等との一体性・連続性の高い空間や都心の眺望を楽しめる空間を創出 ◇都市再生を通じて創出された機能やストックされた空間の多様性と“場の力”を活かし、ネットワーク化を推進</p>	◇道路を含む公共空間の活用
3 都心の風格と景観、界隈の魅力を引き継ぎ、創出するまちづくり	都心の風格とまちの文脈がつながる界隈	<p>◇首都東京の都心としての歴史の積み重ねがつくる風格を活かし、新しい都心デザインのなかで継承 ◇文化・芸術機能の強化（MICE 等）</p>	<p>◇MICE やアフターコンベンション等のニーズへの対応 ◇ナイトエコノミーニーズへの対応</p>
4 道路・交通体系と快適な移動環境の整備	交通結節機能と移動ネットワーク	<p>◇空港アクセスなど、都心への広域的なゲートとしての機能・利便性の向上 ◇シェアリングエコノミーの進展や自動運転技術の進歩に伴う次世代の移動環境</p>	◇シームレスな移動環境
5 多様性を活かすユニバーサルなまちづくり	障壁のない多様な活動と交流	◇ユニバーサルデザインの都市環境整備からヒューマンセンタードデザイン、ダイバシティへの進化	◇外国人観光客の増加に対応する多言語対応
6 災害にしなやかに対応し、回復力の高い強靱なまちづくり	災害対応力（防災力・復元力・継続性）	<p>◇大規模災害の発生を想定し、政治・行政・司法の国家中枢機能とともに、高度で国際的なビジネス交流の拠点としての機能の継続性や滞在者等の安全を確保 ◇迅速で的確な災害対応とその事前準備</p>	<p>◇避難等の安全確保対策、都心生活・都心機能・国家中枢機能の継続及び早期復旧 ◇昼間人口の多さ、外国人観光客の大幅な増加に伴うひとの多様性に配慮した大規模災害対策 ◇大規模な災害に対して強靱な社会基盤を有する都心の拠点地区 ◇復興事前準備 ◇都市機能と都心生活の継続性確保のための空間・機能・施設の誘導 ◇ライフラインの強靱性、バックアップ機能の確保 ◇帰宅困難者対策を支援する開発誘導</p>
7 高水準の環境・エネルギー対策を進めるまちづくり	都心の快適性と脱炭素、エネルギー利用	<p>◇地下空間、地上レベル、建物上部の空間などをつなげ、より居心地良く、過ごしやすい空間の活用 ◇ICT と充実した都市基盤、移動環境、自律性の高いエネルギー基盤の確立 ◇ESG 投資の動向を取り入れた都市づくり</p>	<p>◇開発に伴う規制・誘導（面的エネルギー利用の拡大、再生可能エネルギー・未利用エネルギーの活用の推進、地域エネルギーデザインの具体化） ◇スマートな都心形成を目指すビジョンの確立・戦略の展開 ◇技術開発・実装化の社会実験の実施</p>